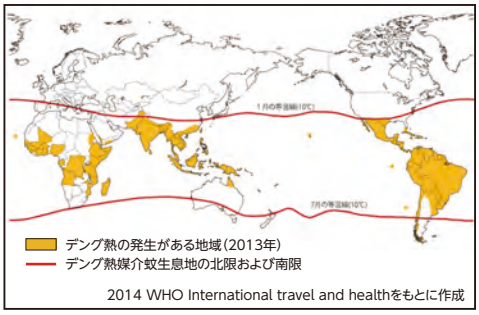
海外で気をつける蚊媒介感染症

デング熱，ジカウイルス感染症（ジカ熱），チクングニア熱，マラリア

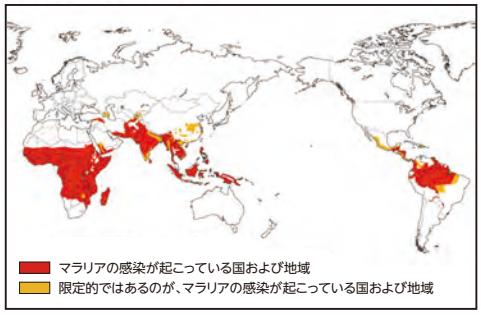
デング熱，ジカ熱，チクングニア熱，マラリアとはどんな病気ですか？どのようにして感染するのですか？

デング熱，ジカ熱，チクングニア熱は，それぞれデングウイルス，ジカウイルス，チクングニアウイルスというウイルスの感染により発症する病気です。マラリアは，マラリア原虫という寄生虫により発症する病気です。

これらの病気は，蚊が媒介することによってヒトに感染を起こします。デングウイルス，ジカウイルス，チクングニアウイルスはネッタイシマカやヒトスジシマカによって，マラリアはハマダラカによって媒介されます。これらの蚊が生息している地域で流行しています。



デング熱のリスクのある国
（出典：厚生労働省検疫所FORTH）



マラリアのリスクのある国
（出典：厚生労働省検疫所FORTH）

※ジカ熱やチクングニア熱についても，同様の地域での蚊の感染に気をつけてください。

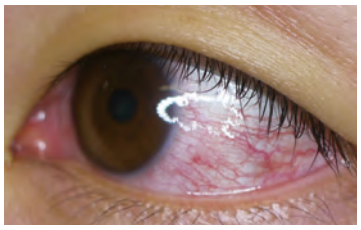
デング熱，ジカ熱，チクングニア熱，マラリアの症状はどのようなものですか？

デング熱，ジカ熱，チクングニア熱，マラリアの症状は，次のようになります。

	デング熱	ジカ熱	チクングニア熱	マラリア
潜伏期間	3～7日	2～12日	2～12日	1～4週間（原虫の種類により異なる）
発熱	++++	+	+++	+++
関節痛・筋肉痛	+++	+	++++	++
四肢の浮腫	−	+	−	−
腹痛・下痢	−	−	−	++
紅斑	++	+++	++	−
後眼窩痛	+	++	+	+
結膜充血	±	+++	+	−
リンパ節腫脹	++	++	++	−
白血球／血小板減少	+++	+	++	+++
出血症状	+	−	−	−

（出典：Med Mal Infect. 2014　Jul；44(7)：302-307を改変）

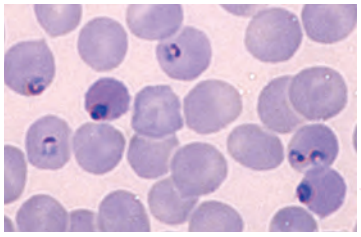
デング熱の皮疹



ジカ熱の結膜充血

［写真提供（デング熱，ジカ熱，チクングニア熱）：
国立国際医療研究センター病院
国際感染症センター　忽那賢志 氏］

チクングニア熱により右肩が上がらない



末梢血塗抹ギムザ染色標本の熱帯熱マラリア原虫

［写真提供：川崎医科大学附属川崎病院
見手倉久治 氏］

感冒やインフルエンザのような症状に似ていますが，紅斑や結膜充血などの特徴的な症状もあります。

デング熱では，高熱と血小板の著明な低下が現れます。

チクングニア熱では，長引く関節痛，筋肉痛があります。

ジカ熱では，結膜充血，全身の皮疹の頻度が高率です。

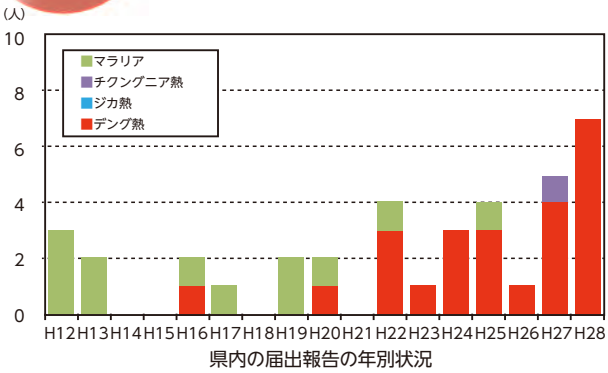
マラリアでは，特徴的な発熱と血小板減少がみられます。特に３日熱，４日熱マラリアでは発熱に周期性があり，３日に１度，４日に１度の発熱はマラリアの可能性があります。最重症の熱帯熱マラリアでは高熱が続きます。

発熱，血小板減少，皮疹等の症状を認めた場合には，海外渡航歴の聴取が重要です。

治療はどのように行うのですか？

デング熱，ジカ熱，チクングニア熱は対症療法が中心となります。重症型デングとなった場合には，厳重な体液量管理，出血に対する輸血などが必要となります。マラリアには，抗マラリア薬である，マラロン®（アトバコン・プログアニル），キニマックス®（キニーネ）等が使用されます。重症型デングやマラリアは集中治療室を備えた施設での治療が推奨されます。

広島県内の患者の発生状況は？



県内の届出報告の年別状況

※すべて国外感染例（輸入症例）です。
※チクングニア熱は平成23年2月1日から，ジカ熱（ジカウイルス感染症）は平成28年2月15日から，感染症法に基づく全数報告対象となる。
※平成28年は6月までの報告数。

平成28年6月末日現在，デング熱，チクングニア熱，マラリアの県内の届出報告は，いずれも国外で感染した患者（輸入症例）で，県内での感染はありません。また，平成28年2月15日から感染症法で全数報告対象と定められたジカウイルス感染症（ジカ熱）の報告はありません。しかしながら，近年，これらの感染症の流行地への旅行者等の増加により届出報告数は増加しており，平成28年は上半期で7例と，過去の年別報告数を上回っています。

デング熱，ジカ熱，チクングニア熱を媒介するヒトスジシマカが，県内でも生息していることを考えると，平成26年のデング熱の国内集団発生のように，こうした蚊媒介感染症が県内で発生する可能性はあります。

今後，県内からの流行地域への旅行者や，流行地域からの県内への旅行者が増加することが見込まれることから，マラリアも含め，蚊媒介感染症の国内外の発生状況に対する注意が必要です。

予防はどうすれば良いのですか？

デング熱，ジカ熱，チクングニア熱については，ワクチンや予防薬はありません。流行地の情報と旅行先での蚊対策が重要になります。そのためには，長袖長ズボンで皮膚の露出を避ける，電池式携帯蚊取り器を携行する，皮膚の露出部や衣服に虫よけ成分のDEETまたはイカリジン（Picaridin）を含んだ虫よけ剤を使用するなどの対策を行います。また，ホテル等では網戸を使用したり窓を閉める，蚊取り器や蚊帳を使用するなどの対策も考えましょう。なお，日本で市販されている虫よけ剤のDEET成分は10%程度で，持続時間はおよそ2時間です。海外に行かれる場合には，海外でDEET30%程度の虫よけ剤を購入し，使用することをお勧めします。日本でも，平成29年に数社からDEET30%の虫よけ剤が販売される予定となっています。

マラリアに関しては，蚊の対策に加え，マラロン®やメファキン®の予防内服が行われますが，保険適用にはなりません。

ヒトスジシマカ
（写真提供：広島県立総合技術研究所保健環境センター）

これらの病気を診断した医師は保健所へ届出してください

デング熱，ジカウイルス感染症（ジカ熱），チクングニア熱，マラリアは，感染症法で定められた全数報告対象の4類感染症です。
診断された場合は，ただちに保健所への届け出が必要です。

確定診断はどこでできるのですか？　その際の検体採取方法と注意点は？

デング熱患者，ジカ熱及びチクングニア熱患者については，まず管轄保健所に検査について相談してください。その時点で検査が必要と判断された場合は，地方衛生研究所や国立感染症研究所において遺伝子検査や抗体検査が実施されます。

遺伝子検査のための検体は，急性期の血液（EDTAで凝固防止した血液や血清），発病後日数が経過している場合は尿（5ml程度）も採取してください。

抗体検査のための検体は，急性期（発症後5日程度のもの）の血清と，必要であればペア血清（発症後3週間以上経過したもの）を採取してください。採取した検体は冷蔵で保存し，速やかに検査機関に提出してください。

なお，デング熱については，患者の集中治療に対応できる医療機関での入院患者に限り，保険適用での検査（血液中の抗原及び抗体検査）が可能です。

マラリア患者については，血液塗抹で赤血球中の原虫を確認します。塗抹標本で検査可能な施設に御相談ください。

リーフレットに関するお問い合わせ：広島県地域保健対策協議会事務局（広島県医師会内、TEL 082-568-1511）
その他の相談，お問い合わせ　　：最寄りの保健所・保健センターまで

広島県地域保健対策協議会 健康危機管理対策専門委員会／広島県感染症・疾病管理センター（ひろしまCDC）
広島県立総合技術研究所 保健環境センター／特定非営利活動法人 ひろしま感染症ネットワーク